

5月1日からは、4階北病棟休床(37床)、看護師配置を1から10:1に変更しているのです。

看護師配置や病棟の変更は協定書違反ではないか、市民に情報を開示し、説明を行うべきだと追及しました。

「相乗効果」否定とは

しかし、「入院患者に影響を与えていない」「治療に悪影響ない」の答弁を繰り返す当局。協会とのシナジー効果(相乗効果)を強調していたのに看護師不足を招き、すると今度は「看護師はチームワークが必要なので協和会からは入れていない」と言い出す始末。あきれかえります。

新病院 大きすぎるリスク

事実をみないで市民不在と協和会への遠慮が目に残ります。入院・外来とも患者が激減し、医師や看護師が新たに退職するなどの現状で、新病院を建設しても、医師80〜90人、看護師約400人、医療技術職約100人の人材は確保できるのか。

355億円もの巨費を100%市の借金で賄うリスクの大きい新病院建設計画は見直すべきだと追及しました。

住民が主人公!



「食べることは生きること」

「学校給食は教育の一環」という立場で中学校給食の実現に取り組んでいる「川西の中学校給食を実現する会」は、6月22日、キセラ(スタジオ)に於いて、伊丹市立中学校給食センターの視察(5月21日)結果の報告を、また市内小学校給食の現状について栄養士さんからお話を伺いました。

まちづくりの根幹に関わる「2次救急病院」。こどもを産み育てることができると病院はまちの要、偏在させてはなりません。「まちを壊すな」「命を守れ」当たり前を届け続けましょう。

街を壊さないために

あらためて問題の多い川西市立総合医療センター(400ベッド)基本構想。多田ベリタス病院より北部に2次救急の空白地をつくること(猪名川・豊能・能勢も空白地)、市内の急病ベッドが148床無くなること、新病院は、緩和ケア病棟が無くなること、人間ドックなどの検査をやらないこと、駐車場確保ができないことを明らかにすると共に、外来患者の約7割、入院患者の約6割が川西市民であり、3町の医療をも守っていること。また、中・南部の市民が外来の約45%、入院の約49%おり、市民の命の砦になっていることも明らかにしました。

駐車場もない病院?

こどもは未来・希望、おとなの役割・責任としての「給食」を考える

スチームコンベクションオーブンなど最新の調理機器などの導入、センター方式ならではの集中管理の食品衛生の徹底、成長期のこども達の食育推進にむけた伊丹市の取り組みを確認しながら、改めて川西市がPFI方式※で進めようとしている最大4800食(事業費約66億円)の給食センター(南中学校(久代)校庭で建設予定)について意見を出し合いました。 ※PFI方式~Private-Finance-Initiative(プライベート・ファイナンス・イニシアチブ)民間の資金と経営能力・技術力(ノウハウ)を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法

新しい施設の衛生管理は優れている面がある(現状の施設の課題解決も必要) ☆センター方式とひとくくりではなく、大規模化の問題・課題が大きい

力、社会性、健康、食習慣、感謝、食文化)を達成できる給食こそめざすべき

こどもの何を育てるか

こどもに何を伝え、何を育てていくのか・・・「学校給食」の話しをしながら、見えてくる課題や問題(働き方や生活スタイルと共にこの国の食糧需給率の低下)。どんどん複雑・拡大していくけれど、今、保育所や学校現場で栄養士さんや調理師さんと連携しながら「個ども」に向かい合っている姿がリアルに理解できた。まさに教育(人格の形成)。その具現化・形にしていく中学校給食を求め続けたいと感じた。

ご飯を作る時の音、匂いは一生もの。本物に触れてほしい!



民営化の問題は

☆管理・運営の民営化の問題・課題が大きい(アレルギー対応だけでなく、様々な背景をもった児童・生徒ひとり一人への支援、教育的対応・配慮が自校方式だと可能になる部分が多い。コロッケや春巻きなどは冷凍加工品が主。地方では小規模センターでの取り組みが広がっている。もしもの時や災害時に困るのは大規模・集約化。配送時間・費用の課題。勤務する人の確保など労働環境が課題)

日本一の給食」の旗は

☆川西市は日本一の給食を目指していたはずだったのでどうしてこうなったのか理解できない ☆学校給食の目標(食事の重要性、食品を選択す

「給食工場」でいいのか

☆川西市として学校給食に何を求めていくのか、根本のところが大切(宝塚市や芦屋市などは市の方針が明確) ☆教育は人間が人間を育てていく過程こそ必要なのではないか(機械化、マニュアル化された給食工場からの配食サービスでいいのか)

「センター方式」にもいろいろ

☆厳しい国の衛生基準があるので

請願	付託常任委員会	賛成(会派)	反対(会派)
「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める	総務生活常任委員会 6月18日(火) (委員長・多久和)	北野(日本共産党) 岡(改革の風) 山下(改革の風)	大崎(公明党) 秋田・磯部(まほろば) 吉富(無所属)
市立川西病院の政策医療の維持充実を求める	建設公企常任委員会 6月20日(木) (委員長・斯波)	黒田(日本共産党) 谷(改革の風)	江見・大矢根(公明党) 久保・松隈(まほろば) 福西(改革の風) 坂口(明日のかわにし)
市立川西病院の現状の情報開示と北部医療体制の市民要望を聞くことを求める	上 同	黒田(日本共産党) 谷(改革の風)	江見・大矢根(公明党) 久保・松隈(まほろば) 福西(改革の風) 坂口(明日のかわにし)

6月議会・請願の委員会審査結果(敬称略) 28日(金)最終本会議